

防災訓練で自衛隊の活動をPR



災害派遣活動写真パネルと戦闘糧食に興味を示す家族たち

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山 1 海尉）は、8月26日（土）、大和市立大野原小学校において実施された大和市総合防災訓練「防災フェスタ2017」に参加した。

会場では、消火訓練、震災や救急救命などの体験の他、災害時の資機材や防災用品の展示が行われ、多くの地域住民が訪れた。

自衛隊ブースでは、戦闘糧食、災害派遣時の人命救助や給水支援活動などの写真パネルを展示し、戦闘糧食を手にとった家族連れは「味はいいのですか？食べてみたい」と興味津々の様子で、広報官の説明に耳を傾けていた。

また、前日に秋田県で豪雨により河川が氾濫したことから、災害への関心が高まり、災害派遣写真パネルの前で立ち止まる来場者が多く、自衛隊の活動をひとつひとつ確認し、理解を深めている様子だった。

来場者は「災害時、自衛隊の存在はとても頼もしい」「人命救助だけでなく、入浴などの生活支援もしているですね。ありがとうございます」などと話した。

厚木募集案内所は「今後も防災訓練等を通じて自衛隊の活動を積極的にPRし、自衛隊への理解と防衛基礎の拡充に努めていく」としている。

大和市自衛隊協力会の海自第2潜水隊群研修を支援 —潜水艦「こくりゅう」を見学



潜水艦「こくりゅう」乗員の説明を熱心に聞く参加者



潜水艦「こくりゅう」を見学した自衛隊協力会（海自第2潜水隊群で）

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山 1 海尉）は、9月5日（火）、米海軍横須賀基地内にある海自第2潜水隊群において実施された大和市自衛隊協力会21名の部隊研修を支援した。

基地では、司令部にて概要説明を受けた後、最新潜水艦「こくりゅう」の発令所や居住空間などを見学し、潜望鏡の操作体験も行った。

参加者は、狭いながらも機能的な艦内の構造について積極的に質問し、乗員の独特な生活に驚いている様子だった。

研修終了後、参加者は「乗組員の説明は、丁寧で分かりやすく勉強になった」「貴重な体験ができ、有意義な研修になった」など感想を述べていた。

厚木募集案内所は「今後も部隊研修を積極的に支援し、自衛隊への理解深化に努めていく」としている。

防衛大学校神奈川県家族会部隊研修を支援



第1空挺団見学の防衛大学校神奈川県家族会
～降下塔前にて～

神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野 大資）は、9月20日（水）、第1空挺団（習志野駐屯地）において防衛大学校神奈川県家族会部隊研修を支援した。本研修は、毎年2回、様々な部隊を研修し、自衛隊を理解していただくとともに、特に入校して間もない1・2学年のご家族の不安の払拭・情報交換を目的に実施されるもので、会員には人気が高く、今回は44名が参加した。

研修では、午前中第1空挺団の概要説明を受け、午後から落下傘整備工場を見学した。

会長、副会長による副団長表敬時では、「防大卒業して30年になりますが、人のつながりでごこまでやってきた。特に卒業しても我々（防大生）を暖かく育てていただいた」とのお言葉に会長一同感心していた。

また、落下傘整備工場見学では、説明を行った投下整備小隊長が、会員ご子息の同期であったので更に盛り上がり、隊員の命である落下傘の整備について活発な質問がなされた。

研修終了後の車中では、ご子息の近況、新会員に対するアドバイス等、活発な意見交換が行われ新会員のご子息ご令嬢の成長への喜びと不安の交錯した感情に先輩家族会員からのあたたかい助言等に感謝する場面もあった。多くの家族会員からは「非常に勉強になった」「次回も是非参加したい」等の意見を聞くことができた。

神奈川地本は「今後も家族会等との連携により、自衛隊に対する理解を促進するとともに協力態勢を確立し、募集をはじめ防衛省・自衛隊の諸活動に積極的に連携させたい」としている。